

校内研修資料

発達障がいのある子どもの指導や支援に関する

「校内研修プログラム」活用事例集

～「体制づくり」から「指導や支援の充実」へ～



北海道教育委員会
平成27年12月

はじめに

北海道教育委員会では、道内全ての教員が、通常の学級における発達障がいのある子どもへの指導や支援に関する基礎的な知識や技能を習得することができるよう、森町、美唄市、湧別町の3地域計8校のモデル校の取組をもとに、プール学院大学の松久眞実准教授の御助言を踏まえ、「校内研修プログラム」（以下、本プログラムという）を作成し、平成27年3月に道内すべての幼稚園、小・中学校、高等学校に配布しました。

その後、道内の各学校に対し、本プログラムの活用状況を把握したところ、多くの学校で活用していただいている一方、

- 活用する研修シート試案に偏りがあること
- 活用する時間の確保が難しいこと
- 年間を通した計画的な取組が少ないこと
- 地域としての活用事例が少ないこと

などの課題が明確になりました。

こうした課題を踏まえ、北海道教育委員会としては、本プログラムが一層活用されるよう、「発達障がい支援モデル事業」のモデル校や協力校及び協力地域、道内の各学校から取組を収集し、

- 全ての研修シート試案の活用
- 短い時間での活用
- 年間を通した計画的な活用
- 地域としての活用

について、顕著な活用事例を「校内研修プログラム活用事例集」としてまとめました。

本事例集が、道内の全ての教員が、通常の学級における発達障がいのある子どもへの指導や支援に関する基礎的な知識や技能を習得するなど、特別支援教育の専門性の一層の向上の一助となることを期待します。

平成27年12月

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課長

小原 直哉

発達障がいのある子どもの指導や支援に関する基礎的な知識や技能を習得するための

校内研修プログラム～「体制づくり」から「指導や支援の充実」へ～

研修の項目	研修のねらい	研修の内容	研修の形態の例
	これまでの各種調査結果等で明確になった課題から、「研修の項目」「研修のねらい」を設定しています。	「研修の項目」「研修のねらい」に基づいて、「研修の内容」を設定しています。	教職員全員で実施する「全体研修」のほか、校内委員会や学級経営等の交流会としての実施、職員会議終了後や、学年・ブロック等で短い時間で実施する「ミニ研修」などが考えられます。
Ⅰ 発達障がいの特性の理解や実態把握、支援方法の検討	◇発達障がいのある子どもの学習の困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。	Ⅰ－１ 発達障がいの特性の理解	○ミニ研修、校内委員会（疑似体験） ○全体研修（疑似体験）（講師を招聘した講義や演習）
	◇実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。	Ⅰ－２ 実態把握、支援方法の検討	○ミニ研修、校内委員会（実態把握や支援策の検討） ○全体研修（講師を招聘した心理検査の講義等）
Ⅱ 個別の指導計画や個別の教育支援計画	◇個別の指導計画の一部を作成し、書き方を考えるとともに、指導や支援の見通しをもつ。	Ⅱ－１ 個別の指導計画の作成	○ミニ研修、校内委員会（事例に基づいた書き方の演習） ○全体研修（講師を招聘した講義や演習）
	◇個別の教育支援計画について保護者の理解や同意を得るための説明や相談の仕方を考える。	Ⅱ－２ 個別の教育支援計画の作成	○ミニ研修、校内委員会（保護者への相談の演習） ○全体研修（講師を招聘した講義や演習）
Ⅲ 環境づくり ※ここでのいう「学級づくり」とは、学級集団の形成に向けた取組のことをさしており、「授業づくり」とは、授業の準備や授業の実際のことをさしています。	◇通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。	Ⅲ－１ 学級づくり ① 指導や支援 ② 教師の言葉がけ ③ 障がいの理解	○ミニ研修、校内委員会、生徒指導交流会（交流、演習） ○全体研修（講師を招聘した講義や演習）
	◇通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮について考え、授業づくりで心がけていくことを整理する。	Ⅲ－２ 授業づくり	○ミニ研修（ビデオ研修、指導案検討や模擬授業、授業研究） ○全体研修（ビデオ研修、指導案検討や模擬授業、授業研究）
	◇学校全体で取り組む発達障がいのある子どもへの指導や支援の在り方を検討する。	Ⅲ－３ 校内の連携	○ミニ研修（学年やブロックによる検討） ○全体研修（講師を招聘した講義や演習）
Ⅳ 個別の指導や教育支援の実際	◇個別の指導計画をもとに、支援の改善やその質の向上について考える。	Ⅳ－１ 個別の指導計画の活用	○ミニ研修、校内委員会（学年やブロックによる検討） ○全体研修（講師を招聘した講義や演習）
	◇個別の教育支援計画を活用した次の校種（進路先）への引継ぎの仕方について考える。	Ⅳ－２ 個別の教育支援計画の活用	○ミニ研修、校内委員会（学年やブロックによる検討） ○全体研修（講師を招聘した講義や演習）
Ⅴ 参考	◇知りたい内容について、参考資料を活用し、研修を深める。	Ⅴ－１ 参考資料の活用	○ミニ研修（参考資料や参考文献の読み合わせ）（研修成果の検証） ○全体研修（参考資料や参考文献の読み合わせ）（研修成果の検証）
		Ⅴ－２ 研修成果の検証	

- 研修内容ごとに、「研修シート(試案)」がありますので御活用ください。
- 本プログラムは、「発達障がいのある子ども」だけでなく、学校として特別な教育的支援が必要と判断した子どもへの指導や支援の充実にも活用できるものです。
- 道内のすべての教員が、支援が必要な子どもの困難さの背景を読み取り、保護者の心情に寄り添いながら、指導や支援の質を高めていけることを願っています。

「校内研修プログラム」活用事例集・目次

1 学校の活用事例

(1) 研修シート試案の活用

【事例 1】	発達障がいの特性を理解するために	(高等学校)	1
【事例 2】	実態把握と支援方法を検討するために	(小学校)	3
【事例 3】	個別の指導計画を作成するために	(中学校)	5
【事例 4】	個別の教育支援計画の作成を目指して	(中学校)	7
【事例 5】	学級づくりの配慮を充実させるために	(小学校)	9
【事例 6】	好意に満ちた言葉がけとするために	(高等学校)	11
【事例 7】	保護者に理解を深めるために	(幼稚園)	13
【事例 8】	授業の配慮を充実させるために	(高等学校)	15
【事例 9】	校内の連携を確認するために	(小学校)	17
【事例 10】	個別の指導計画を見直すために	(幼稚園)	19
【事例 11】	個別の教育支援計画の活用を目指して	(幼稚園)	21
【事例 12】	研修成果の検証	(小学校)	23

(2) 短い時間での活用 25

【事例 13】～【事例 20】

(3) 年間を通した計画的な活用

【事例 21】	すべての研修内容を取り扱った事例	(幼稚園)	28
【事例 22】	「学級づくり」を中心とした事例	(小学校)	30
【事例 23】	「授業づくり」を中心とした事例	(小学校)	32

2 地域での活用事例

【事例 24】	幼小中の合同研修の事例	34
【事例 25】	地域の幼稚園の合同研修の事例	35
【事例 26】	市の特別支援連携協議会の事例	36
【事例 27】	市のコーディネーター研修の事例	37

1 学校の活用事例

(1) 研修シート試案の活用

研修シート試案の活用事例は、
見開き 2 ページで、
左側が「研修シート試案」、
右側が「そのシートを活用した事例」
となっています。

研修シート(試案)

I - 1 発達障がいの特徴の理解

◎ ねらい

発達障がいのある生徒の学習の困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。

1 疑似体験 (教師役と生徒役、観察者に役割を分担して実施します)

演習1

※演習例

① 教師役が、次のような長い文章を早口で説明します。

明日は札幌の円山公園に出かけます。7時45分にJR「余市」駅に集まってください。
余市駅発8時18分の列車に乗り、札幌駅着が9時31分、到着後は、地下鉄南北線、東西線を乗り継ぎ、円山公園駅下車、バスセンターまで歩き、そこから西15番動物園線、円山西町2丁目行きのバスに乗ります。円山動物園前で下車すると、すぐそこに動物園の入り口があります。
動物園に入るときは、私が皆さんに、動物園の地図と入場券を配ります。・・・

② このあと、教師役が生徒役に質問をします。

- ・余市駅を何時の列車に乗りますか。
- ・地下鉄はどこで降りますか。
- ・何番線のバスに乗りますか。
- ・動物園まではどこ行きのバスに乗りますか。など

演習2

※演習例

準備：英文（61ページ参照）

教師役が英文をできるだけ早口で1回だけ読み聞かせます。
読み終えた後、どのような内容だったかを日本語で発表してもらいます。

2 振り返り (発達障がいのある生徒の心理面や教師の指示の在り方で気付いたこと)

【事例1】研修シート試案の活用

発達障がいの特性を理解するために

校内研修の取組（高等学校）

～校内研修において、研修シート試案のⅠ—1「発達障がいの特性の理解」を踏まえ、聞き取ることや理解することの困難さを体験しました。

- ◎ ねらい
発達障がいのある子どもの聞き取ることや理解することの困難さを体験し、その心理や教師の指示の在り方を考える。

1 疑似体験（教師役と子ども役に役割を分担して実施）

演習

① 教師役が、次の長い文章を早口で説明しました。

明日は、バスで町内の名所をめぐる予定です。注意することは、
「先生から目を離さないこと」
「はぐれないよう、グループで一緒に行動すること」
「勉強に関係ない無駄話をしないこと」です。

朝8時45分に学校を出発します。
バスで、名所をまわって見学し、公園で昼食とします。
昼食の時の約束は、
「好きな者同士で食べていいけど、一人ぼっちの人をつくらないこと」
「ゴミを公園に残さないこと」です。

帰ってきて教室で見学場所の歴史や文化をノートに箇条書きで整理します。
持ち物を言います。

①見学のしおり、②筆記用具、③ノート、④水かお茶（ジュースはだめです）、
⑤雨具、⑥弁当、⑦ハンカチ、⑧ちり紙です。おやつはだめです。

忘れ物は絶対しないようにしてください。また、見学場所は公共施設ですので、
他のお客様の御迷惑にならないよう、マナーを守ってください。
さあ、先生の話が分かりましたか。

② 教師役が説明内容について、淡々と質問しました。

- ・ 注意することの2番目は何でしたか。
- ・ 持ち物は全部でいくつありましたか。
- ・ 昼食の時の約束は何でしたか。

2 振り返り

- こんな長い説明は覚えきれないです。席に座っているだけで辛いと思いました。
- 認識するまでの時間が、人によって違うことがよくわかりました。
- 抑揚を付ける、言葉を区切るなどの話し方の工夫が重要と感じました。
- 覚えていないからと言って、子どもをただ叱るだけでは、解決しないと思いました。

研修シート(試案)

I - 2 実態把握、支援方法の検討

◎ ねらい

実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。

1 実態把握

この項目や内容を参考に、気になる子どもの実態把握をする。

項目	内 容	該当する場合は○
長所		
がんばろうとしていること		
聞く	全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい	
話す	話しているうちに内容がそれることが多い	
読む	文字は読めても単語や文として読むことが難しい	
書く	板書を書き写すのに時間がかかることが多い 細かい部分を書き間違えたりすることが多い	
計算する	計算するのに時間がかかることが多い 答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くことが難しい	
推論する	図形を描くことが難しい 文章題を解くことが難しい	
注意集中	気が散ることが多い 最後まで課題に取り組むことが難しい	
多動性	じっと座っていられずに立ち歩くことが多い	
衝動性	質問を最後まで聞かずに答えてしまうことが多い	
人とかかわり	相手の感情や立場を理解することが難しい	
コミュニケーション	自分がわからない状況や困っていることを相手に伝えることが難しい	
興味の範囲	興味・関心のある対象が限られ、特定のものへのこだわりが強い	
特異な行動	身体の動きのぎこちなさや手指の不器用さが目立つ	

(参考 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に関する調査」の項目)

2 支援方法の検討

上の表の項目を踏まえ、支援の方法について検討する。

※ ポイント～当該の子どもにとって、最も困難なことのみに目を向けるのではなく、自立してできることをさらに伸ばす観点から、支援の方法を検討する。

3 振り返り (実態把握と支援方法の検討を通して、留意点として考えたこと)

【事例2】研修シート試案の活用

実態把握と支援方法を検討するために

校内研修の取組（小学校）

～校内委員会において、研修シート試案のⅠ—2「実態把握、支援方法の検討」を活用し、児童の実態把握や支援方法について交流しました。

- ◎ ねらい
児童の実態把握や支援方法を交流し、指導や支援の留意点を明確にする。

1 実態把握

児童B

項目	項目	
長所	・授業において、学習活動に真剣に参加することができる。 ・学習に関する作業を丁寧に行うことができる。	
努力していること	・学習や生活の場面において周囲の状況を把握してから友達に話しかける。 ・分からないことや不安なことがある場合、周囲の教職員に相談する。	
聞く	全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい	○
話す	話しているうちに内容がそれることが多い	
読む	文字は読むことができるが、単語や文として読むことが難しい	
書く	板書を書き写すことに時間がかかる 細かい部分を書き間違える	
計算する	計算に時間がかかる 段階を重ねて答えを導き出す問題を解くことが難しい	
推論する	図形を描くことが難しい 文章題を解くことが難しい	
注意集中	気が散ることが多い 最後まで課題に取り組むことが難しい	○
多動性	じっと座っていられずに立ち歩く	
衝動性	質問を最後まで聞かずに答えてしまう	
人とのかわり	相手の感情や立場を理解することが難しい	○
コミュニケーション	わからないことや困っていることを相手に伝えることが難しい	○
興味の範囲	興味・関心のある対象が限られ、特定のものへのこだわりが強い	○
特異な行動	身体の動きのぎこちなさや手指の不器用さが目立つ	

2 支援方法の検討

- 授業の流れが把握できず、集中できないことがあるため、見通しをもつことができるよう、スケジュールの掲示や明確な指示に心がける。
- 丁寧に作業していることを認め励ますことを大事にする。
- 相手の気持ちや周囲の状況を折に触れて、メモや絵で示し、理解を促す。

3 振り返り

- 児童Bのことをみんなで考えたことにより、つまずきのポイントが見えてきて、支援方法を考えることができました。
- 研修シート試案を活用することで、観点に沿って見取ることができるとともに、児童Bのもつよさを伸ばしながら適切な支援を行うことが大切と感じました。

研修シート(試案)

Ⅱ－１ 個別の指導計画の作成

◎ ねらい

個別の指導計画を作成し、書き方を考えるとともに、指導や支援の見通しをもつ。

学 年 _____

氏 名 _____

子どものよさ(○) 学習や生活上、困難なこと(△)		長期目標 (１年後を目標に)	
※記入例 ○ 数学の計算問題が速くできる。 ○ 見通しがもてると、集中して取り組むことができる。 △ 全体への指示を聞き取って行動することが難しい。 △ 座席のまわりが乱雑であり、自分の持ち物をなくしてしまうことが多い。		※記入例 ・説明や指示を聞き取って行動できる力を高める。 ・学校生活のルールを守って、行動することができる。	
短期目標 (１～３か月後を目標に)	場 面	指導や支援の内容、方法	評 価
※記入例 ・集中できる時間が長くなるようにする。	※記入例 ・授業中	※記入例 ・何をするのか、見通しを示し、集中できるようにする。 ・教室の音を減らし、教師の言葉も少なくし、集中できるようにする。	※記入例 ・３０分以上は座っていられるようになってきている。
※記入例 ・持ち物を自分で片付けることができる。	※記入例 ・授業中 ・学校生活	※記入例 ・持ち物の片付け場所を決める。	※記入例 ・少しずつ片付けることができるようになってきている。

２ 振り返り（個別の指導計画を作成して、気付いたこと）

【事例3】研修シート試案の活用

個別の指導計画を作成するために

校内研修の取組(中学校)

～校内研修で、研修シート試案のⅡ—1「個別の指導計画の作成」の様式を活用し、教職員全員で生徒Cの個別の指導計画の作成に取り組みました。

◎ ねらい

個別の指導計画を作成し、書き方を考えるとともに、本生徒への指導や支援の見通しをもつ。

第1学年 生徒C

生徒のよさ (○) 学習や生活上、困難なこと (△)		長期目標 (1年後を目標に)	
○何事にも素直に取り組む。 ○興味関心、知識があり、人との話題が尽きない。 △気持ちをおさえることができないことが多い。 △寝不足から姿勢の乱れ、行動の遅さが目立つ。 △授業中に授業以外の質問や発言が多い。 △相手の状況を考えた質問や会話が難しい。		・気持ちをコントロールする方法をもてる。 ・相手の状況を考えた質問や会話ができる。 ・メモをとる習慣を身に付け、質問を減らす。	
短期目標 (1～3か月後を目標に)	場 面	指導や支援の内容、方法	評 価
・1日1回、感情をコントロールできる。	・学校生活全般	・「今、怒りは10のうち、どれくらい?」「じゃあ、少しずつ静めよう」「よくがまんしました」と個別に声かけし、感情のコントロールを支援する。	
・1日1時間、授業中に授業に関係ない質問をしない。	・授業中	・授業以外の質問はメモをとって授業後にメモを見せるよう促す。 ・教師の指示はカードで掲示しておき、忘れても目で確認できるようにする。	
・週に1回、家庭でも認められる。	・家庭との連携	・学校でがんばった事実を伝え、家庭でも認めてもらうようお願いする。また、保護者の悩みも聞く。	

2 振り返り

- 個別の指導計画と向き合うことで、生徒の心理を深く考えることができました。
- 目標を具体的に決めることで支援の内容や方法がはっきりしました。
- みんなで、生徒Cの個別の指導計画を考えることで、指導計画の書き方や生徒の実態把握の視点がよく分かりました。

研修シート(試案)

Ⅱ－２ 個別の教育支援計画の作成

◎ ねらい

個別の教育支援計画について保護者の理解や同意を得るための説明や相談の仕方を考える。

１ 保護者に個別の教育支援計画作成の同意を得るロールプレイ

(学級担任役、コーディネーター役、保護者役、観察役に役割を分担して実施します)

※ 場面を設定してロールプレイを行ってください。

※ ポイント～子どもの成長に向けて、保護者と共に考える姿勢を大切にしてください。

【場面設定の例】

- ・授業中、全体への指示を聞き取って行動することが難しい子どもについて、当該の子どもの保護者と２回目の話し合いの場面
- ・１回目の話し合いで保護者は「特別なことはしてほしくない」と話していた。
- ・そこで、次のような観点で教育相談を進め、最終的に個別の教育支援計画を作成することについて、同意を得ようとする場面

【教育相談を進める観点】

- 保護者の思いを聞く
- 保護者に支援の内容や方法を提案する
- お子さんができるようになってきていること、うまくいっていないことを確かめ合う
- 次の支援を一緒に考える
- これらのことを記録しておくことのよさを話し合う

２ 振り返り（場면을演示して気付いたこと）

【事例4】研修シート試案の活用

個別の教育支援計画の作成を目指して

校内委員会の取組(中学校)

～校内委員会で、研修シート試案のⅡ―2「個別の教育支援計画の作成」を活用し、個別の教育支援計画の作成に向けた教育相談のロールプレイを行いました。

- ◎ ねらい
個別の教育支援計画について保護者の理解や同意を得るための説明や相談の仕方を考える。

1 保護者に個別の教育支援計画作成の同意を得るロールプレイ

(学級担任役、コーディネーター役、保護者役、観察役に役割を分担して実施)

【場面設定】

- ◇ 先生役～担任の〇〇です。Dさん、今日はありがとうございます。
お子さんのことで、ちょっと話したいと思いましたので、来ていただきました。
- ◆ 父親役～うちの子に何かありましたか。
- ◇ 先生役～はい。学校ではとても元気ががんばっていますが、友達とトラブルになることが多くて、暴力をふるうこともあるので、ちょっと心配なんです。
- ◆ 父親役～そうですか。うちでは何も問題なく、落ち着いて生活してますけどね。
- ◇ 先生役～学校にはいろいろな友達がいるので、Dくんにとっては、コミュニケーションをとるのは確かに難しいと思うんですね。
- ◆ 父親役～じゃあ、なんですか。うちの子は他の子とちがって特別だってことですか。
- ◇ 先生役～いえいえ、そういうわけじゃなくて、Dくんにあった指導と一緒に考えていきたいと思っているんです。
例えば、サインを決めて、そのサインがあった時はがまんするとか、学校と家で同じ約束を決めていただいて、がんばったことをほめていきたいと思っています。
- ◆ 父親役～先生の考えは分かるんだけど、それは、うちの子だけ、特別のルールを決めてやっていくということですよ。うちの子を特別な子じゃなくて、他の子と同じように接してほしいんですよ。
- コーディネーター役
～コーディネーターの△△です。Dくんを特別扱いするのではなく、うちの学校では、一人一人をよく見て、一人一人に応じた指導をしていきたいと思っています。活用さん以外にもその子にあった指導を提案しているんです。
- ◆ 父親役～そうですか。じゃあ、他の子どもには、例えば、どんな対応をされているんですか。

(続きを含めて10分程度、演じた)

2 振り返り

- 振り返ってみると、自分はこれまで、保護者の思いをあまり聞いていなかったように思い、反省しました。
- 「保護者自身のがんばりを認める」、「保護者の思いを受け止める」ためには、教師側の心の余裕が必要と思いました。

研修シート(試案)

Ⅲ－１ 学級づくり

① 指導や支援

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

１ 取組の交流

項 目	事 例	各項目ごとの学級づくりに関する取組交流
※記入例 もめごとやケンカを少なくする取組	※記入例 暴言を減らすために、学級担任が、教室の隅にビニール袋を貼り付けておき、誰かが言った暴言を担任は短冊に書き、それを子どもたちの目の前で破り、ビニール袋に投げ入れています。	
※記入例 叱り方に見通しをもたせる取組	※記入例 叱ることを最低限に減らし、毅然と叱るため、 ・人の心と体を傷つけたときは、ものすごく叱る ・できることをしないときは、叱る ・名札を忘れたときは、少し叱る など、叱る基準を４月に子どもたちに伝え、それを１年間守ります。	
※記入例 騒がしい教室を静かにする取組	※記入例 どの子も静かに集中して学習するために、「これから『サイレントモード』を始めます。１分です。」と言って静かにする時間をつくっています。また、どの子も静かに集中して活動するために、ひそひそ声でしゃべる時間も指示することがあります。	
※記入例 保護者との信頼関係づくりの取組	※記入例 ４月当初から、教師から見た子ども一人一人のいいところをメモしておいたり、「お子さんのよいところや担任にのぞむこと」などについて保護者アンケートをとっておき、その情報をもとに、家庭訪問や行事等の機会に「お母さん、◇◇さん、よくがんばっています。□□が得意なんですね。」と声をかけることを大事にしています。	

２ 振り返り（学級経営上の課題と解決策について、改めて気付いたこと）

【事例5】研修シート試案の活用

学級づくりの配慮を充実させるために

学級経営交流会の取組(小学校)

～学級経営交流会で、研修シート試案のⅢ—1「学級づくり ①指導や支援」を活用し、学級経営上の配慮の取組について交流しました。

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

1 取組の交流

項 目	各項目ごとの学級経営上の配慮に関する取組交流
学習に集中させる取組  大声を出さず、キャラクターを提示	○ 指示する時に、「●分で行います」と終わりを明確に示す。 ○ ひそひそ声など、声のトーンを変化させて指示する。 ○ 一度に出す指示の数を減らす。 ○ 指示の後に、できたことをほめる。 ○ 私語のない子ども、集中している子どもを短い言葉で承認する。 ○ 「私の方を向いてくれてありがとう。」「静かに聞いてくれてうれしいです。」等、アイメッセージで伝える。 ○ 1分間ゲーム（数字書き出し、単語書き出し、目を閉じる等）を行う。 ○ 視覚的な支援で静寂の時間をつくる（例：口を閉じた絵カードなど）。 ○ 私語なしで取り組む時間（例～「サイレントタイム」「がんばりタイム」など）を様々な場面で導入する。
忘れ物を減らす取組	○ 自己目標を立て、忘れ物をなくす方法を考えるよう促す。 ○ 時間割などを活用して持ち物に色ペンで印を付けるよう促す。 ○ 「忘れ物ゼロ」の日は磁石を1つ貼り、たまるとお楽しみ会を行う。 ○ 明日忘れたら困るというものを歌にして、帰りの会で歌う。
人を傷つける言葉を減らす取組	○ 思わず乱暴な言葉を言ってしまいそうになったら、別の行動（10秒間目を閉じるなど）で気持ちを落ち着かせるよう促す。 ○ 教師が丁寧な言葉遣いに心がける。 ○ 互いに認め合う風土を醸成する。  一人一人のがんばりを花の形の色画用紙に書いて教室内に掲示

2 振り返り（学級経営上の課題と解決策について、改めて気付いたこと）

- 先生方の発想の柔らかさ、ユーモアの豊かさに触れることができ、新しいアイデアが浮かんだり、前向きな気持ちをもつことができました。
- これまで学級をよくしたいと思えば思うほど、禁止や否定の言葉を使っていたことに気付きました。

研修シート(試案)

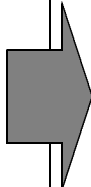
Ⅲ－１ 学級づくり

② 教師の言葉がけ

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある生徒への配慮を含めた学級（ホームルーム）づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

１ 実践の検討（「言葉がけ」を「好意に満ちた言葉がけ」に変える事例を検討し、生徒への教師の言葉がけの在り方を整理する。）

	「言葉がけ」	「好意に満ちた言葉がけ」
例１	「またA君か。誰かがけがしたら、どうする、危ないって言ったでしょ！何回言ったら分かるんだ！」	「いやなことがあったんだね。まず座りなさい。話を聞きますよ。」
例２	「静かにしなさい！」	「Bのグループは静かに待ってるね。」
例３	「この学級は、忘れ物をする生徒が多い最低の学級です！」	「この学級は忘れ物をする生徒は多いけど、授業の集中力は全校で一番いいね！あと、先生からのリクエストだけど、忘れ物をしないようにメモしておくといいよ。」
		

２ 振り返り（教師の言葉がけについて、改めて気付いたこと）

【事例6】研修シート試案の活用

好意に満ちた教師の言葉がけとするために

校内研修の取組（高等学校）

～校内研修で、研修シート試案のⅢ―1「学級づくり ②教師の言葉がけ」を活用し、「ひどい言葉がけ」を出し合い、それを「好意に満ちた言葉がけ」にかえる演習に取り組み、考えた言葉がけを共有しました。

◎ ねらい

発達障がいのある生徒を含めたすべての生徒に対する教師の言葉がけを考え、教師が発する言葉の重さや影響力の大きさを考える。

1 「ひどい言葉」を「好意に満ちた言葉」にかえる演習

	「ひどい言葉」	「好意に満ちた言葉」
1	「こんなことも分からないで、よく中学校を卒業できたな」	「よし、中学校までの学習に戻って先生と一緒にやってみよう！」
2	「もう、やりたくないなら、帰っていいよ。」	「まず何から取り組もうか。」
3	「何で、できないの！」	「どこから分からなくなっているのか、先生と一緒に考えよう！」
4	「あなたに頼んだ私が、バカだった。」	「大丈夫！次は期待してるよ！」
5	「どうせ、やる気ないんだろ？」	「何か嫌なことがあったんだね。気持ちのきりかえができるまで待つよ」
6	「話、聞いてなかったの？」	「大事なことなので、もう1回言います。しっかり聞いてください。」
7	「～なんでしょ。」（決め付け）	「先生は〇〇と思うんだけど、どう思う？」

2 振り返り

- 全否定の言葉は負のエネルギーしか生まないと実感しました。
- 自分の思い通りにならない時、厳しい言葉がけをしてしまっていました。
- 冗談のつもりが、つい、きつい言葉を言ってしまっていました。
- 教師の一言で、生徒の心がどれほど傷付くか、考えさせられました。

保護者に対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

保護者の皆様へ

子どもには、よさやできることがたくさんありますが、「言語発達が遅い」「基本的生活習慣が定着していない」「会話がかみあわない」「落ち着きがない」など、どの子どもにも支援が必要なことがあります。

こうしたことから、本園では、校内委員会を設置して、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員全員で必要な指導や支援を行っていますので、御安心ください。

本園では、例えば、「遊びの中で実体験を充実させる」「そばについて、繰り返し丁寧に指導する」などの必要な支援を行っていきたいと考えています。すべての子どものよさや可能性を伸ばしていけるよう、一人一人に応じた指導や支援を行っていきますので、一部の子どもへの差別やえこひいきをするものではありません。

「互いのよさや違いを認め合える人間関係づくり」に取り組むことは、一部の子どもだけでなく、すべての子どもに対する指導の充実を図っていきけるものと考えておりますので、こうした取組について、御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

また、このことについて、御意見や御質問があれば、いつでも電話や手紙、メールなどをお寄せください。

子どもたちに対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例

子どもたちへ

ひとは、ひとりひとりちがいます。ひとりとして まったくおなじ人はいません。たとえば、「あしがはやい、おそい」「すきなたべものがちがう」などです。

ですから、みんなにも、「ことばで うまくはなせない」「みじたくが うまくできない」など、せんせいのたすけが ひつようなことがあるかもしれせん。

せんせいは、にがてなことには、たとえば、「あそびのなかで、いっしょにかんがえる」「そばについて、ゆっくりくりかえし はなしをする」など、たすけてあげたいと かんがえています。みんなの よいところが のびていくよう、ひとりひとりにあわせて おてつだいをします。

ですから、みなさんも、「ひとりひとりのよさや ちがいをたいせつにすること」に きょうりよくしてください。また、このことについて、おはなししたいことがあれば、いつでも せんせいにつたえてください。

【事例7】研修シート試案の活用

保護者に理解を深めるために

参観日で説明した取組（幼稚園）

～研修シート試案のⅢ―1「学級づくり ③障がいの理解」を参考に、4月の参観日に資料を配布し、保護者に説明しました。

◎ ねらい

研修シート試案の「学級づくり③ 障がいの理解」の説明例を活用して、参観日の配布資料を作成し、説明することにより、保護者の理解を深める。

1 参観日で配布し、園長が説明

保護者の皆様へ

（前略）

幼稚園には、大勢の友達がいます。

しかも、それぞれが違った個性をもっていて、いろいろな人と会うことができます。

そして、お互いに分かり合うまでは時間と努力が必要です。

（中略）

人間は自分一人の力で生きるのではなく、互いに思い合い、助け合いながら育っていく関係をつくりだしてこそ幸せであると思います。その大切さを身をもって知っていくのです。見守っていきましょう。育ちあっていくことを信じて。不安なことがありましたら、ぜひ経験豊富な教職員を頼りにして下さい。一緒に悩みを分かち合ってくれると思います。

子どもには、よさやできることがたくさんありますが、「言語発達が遅い」「基本的生活習慣が定着していない」「会話がかみあわない」「落ち着きがない」など、どの子どもにも支援が必要なことがあります。

こうしたことから、本園では、校内委員会を設置して、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員全員で必要な指導や支援を行っていますので、御安心ください。

本園では、例えば、「遊びの中で実体験を充実させる」「そばについて、繰り返し丁寧に指導する」などの必要な支援を行っていきたいと考えています。全ての子どものよさや可能性を伸ばしていけるよう、一人一人に応じた指導や支援を行っていきますので、一部の子どもへの差別やえこひいきをするものではありません。

「互いのよさや違いを認め合える人間関係づくり」に取り組むことは、一部の子どもだけでなく、すべての子どもに対する指導の充実を図っていけるものと考えておりますので、こうした取組について、御理解と御支援を賜りますよう、お願いいたします。

2 振り返り

- 4月当初の早い段階で、保護者全員に対し、園の方針として、
 - ・互いに支え合い、助け合うことが大切であること
 - ・教職員は保護者の悩みを一緒に分かち合うので、頼りにしてほしいこと
 - ・子ども一人一人に応じた指導や支援を行っていくことに協力してほしいことを明確に伝えることができて、保護者との信頼関係づくりにつながりました。

研修シート(試案)

Ⅲ－２ 授業づくり

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮について考え、授業づくりで心がけていくことを整理する。

1 授業中の配慮

- ※ 配慮の例で、学校として1つ～2つを重点として定め、全学級で取り組むことが考えられます。
- ※ 配慮の例で、個人として既に取り組んでいるものは□を塗りつぶすなど、自己研修に使うこともできます。
- ※ 授業の展開は、その時間の目標や位置付けに応じて定めてください。

過程	子どもの主な学習活動	発達障がいのある子どもに対する教師の配慮の例
導入	■子どもが何を、どのように学ぶかを見通すことができる。	◎ 興味・関心を高めるよう工夫する。 □ 課題を視覚的に理解できるようにする。 □ 話す内容を精選し、簡潔な発問、指示をする。 □ 考え方や解き方を説明する(ICT機器等の活用など)。 □ 教師が説明した内容を理解したかどうかを確認する。 □ 本時の学習のねらいを示す。 など
展開	■子どもが目標の実現に向けて、主体的に学習することができる。	◎ 集中して取り組めるよう工夫する。 □ 考え方や解き方の説明をもとに、取り組むよう促す。 □ しやべらないで、集中して学習するよう促す。 □ 一人で解決することがむずかしい子には、教師が付いて、その子の状況に応じた方法(視覚的支援、操作活動の支援、スモールステップの取組の支援、演示や助言、問答など)で教える。 □ 取組の途中で、その子なりのがんばりをほめる。 など
終末	■子どもが学習を振り返り、何を学んだのかを自覚することができる。	◎ 学んだことを理解できるように工夫する。 □ 考え方や解き方をまとめる(ICT機器等の活用など)。 □ 本時の学習で分かったことを確認する。 □ 練習問題への取組を促し、一人一人の状況を確認する。 ※ 不十分な場合は、その子の状況に応じた方法で教える。 ※ 必要に応じて、難易度の違う練習問題を用意しておく。 など

【授業全般を通した配慮の例】

- 教師の発言
 - ・教師の言葉を減らす、好意に満ちた言葉がけとなるよう心がける など
- 板書
 - ・大事なことは線で囲む、ノートのマスや行に合わせる、色分けする など
- プリント
 - ・読みやすい位置で改行する、写真や絵の境目をはっきりする、振り仮名を大きくし、読みやすくする など

2 振り返り

- ※ 授業実践や授業参観等を振り返って、今後、心がけることなどについて記述します。

【事例8】研修シート試案の活用

授業の配慮を充実させるために

日常の授業づくりの取組(高等学校)

～校内研修で、研修シート試案のⅢ―2「授業づくり」を活用し、日常の授業で教師の配慮を意識して取り組むことを決めました。

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある生徒への配慮について考え、授業づくりで心がけていくことを出し合い、どの授業でも共通に取り組めることを整理する。

1 授業中の配慮

過程	生徒の主な学習活動	本校で定めた発達障がいのある生徒に対する教師の配慮
導入	■生徒が何を、どのように学ぶかを見通すことができる。	● 本時のねらいを明確に示す。 ● 学習内容がどのような場面で役立つかを伝える。 ● 指示は短く、端的にする。 ● 本時のスケジュールを説明する。
展開	■生徒が目標の実現に向け、主体的に学習することができる。	● 一人で、私語なしで静かに取り組む「静寂の時間」を取り入れる。 ● ペアやグループによる学習活動を取り入れる。 ● スモールステップで取り組める問題を用意する。 ● がんばっていることや、よい点を認める。
整理	■生徒が学習を振り返り、何を学んだのかを自覚することができる。	● 板書は消さずに、終末で学習内容を振り返る。 ● 板書は全て写すよう促すのではなく、大事なところを写す、プリントの空欄に書くよう促す。 ● 「○×クイズ」、「確認問題」等で、定着状況を確認する。
授業全般にかかわる配慮 ○ 「分からない時は分からないと言おう。」と伝える。 ○ 「間違っても分からなくても恥ずかしくないこと」を徹底する。		

2 振り返り

- 授業中、ある場面で教師の指示が長すぎて、ほとんどの生徒が混乱していたことがあったので、指示は端的で明確にすることが大切と思いました。
- これまでの授業の反省すべき点が多々思い浮かびましたが、心がけることを先生方全員で整理したことで、明日から自信をもって授業に臨めると思いました。

研修シート(試案)

Ⅲ－３ 校内の連携

◎ ねらい

学校全体で取り組む発達障がいのある子どもへの指導や支援の在り方を検討する。

１ A君への教職員一人一人のかかわり

※ 学級の中だけの対応から、学校全体で組織的に対応していくため、教職員一人一人が時間帯によって、どうかかわれるかを考えてみる。

	学級担任	特別支援教育支援員	学年団	特別支援教育 コーディネーター	養護教諭		
登校時							
授業中							
休み時間							
給食							
清掃							
下校時							

記入例

	担任	特別支援教育支援員	学年団	特別支援教育 コーディネーター	養護教諭		
登校時	教室で道具の片付けを支援する	玄関から教室までの移動の様子を見守る		各教室を巡回し、様子を確認する			
授業中	必要に応じて、支援する	取組のよさを付箋紙にメモしてほめる					
休み時間	学級全体の休み時間の様子を把握する	必要に応じて、活動を支援する	様子を見守る				
給食	一人一人への安全な給食について留意する	必要に応じて、支援する					
清掃	必要に応じて、支援する	支援の結果をメモで担任に伝える			掃除の様子を見守り、担任に伝える		
下校時	一日の取組のよさを伝える			各教室を巡回し、様子を確認する			

２ 振り返り（校内全体で支援を行うために心がけること）

--

【事例9】研修シート試案の活用

校内の連携を確認するために

校内委員会の取組(小学校)

～校内委員会で、研修シート試案のⅢ―3「校内の連携」を活用し、支援を必要とする子どもへの指導や支援体制の在り方について検討しました。

◎ ねらい

通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする子どもへの学校全体の対応を検討する。

1 Eさんへの教職員一人一人のかかわり

※ 学級の中だけの対応から、学校全体で組織的に対応していくため、教職員一人一人が時間帯によって、どうかかわれるかを検討。

	学級担任	支援員	ことばの教室担任	担任以外の教職員
登校時	・教室で本児を出迎え、様子を把握する。		・本児を玄関で迎え、気になる様子が見られたら教室まで同行する。	・本児に言葉かけをしたとき、気になる様子が見られたら教室まで同行する。
授業中	・本児に対する個別指導の内容を支援員に伝え、連携を図って指導を行う。	・学級担任と連携し、個別指導を行う。 ・学級担任に本児の学習状況を伝え、事後の指導について協議する。		
ことばの教室			・本児が学習しやすい雰囲気づくりに努め、指導の様子等の情報を学級担任等と共有する。	
休み時間	・本児の観察に努め、学級全体の様子を把握する。	・本児の観察に努め、学級全体の様子を把握する。 ・学級担任と情報を共有する。	・本児の観察に努め、学級全体の様子を把握する。 ・学級担任と情報を共有する。	・本児の観察を意識し、気になる様子が見られたら、学級担任に報告する。
給食	・本児の状態に応じて一緒に食事をする。		・本児とかわりながら給食指導を行う。 ・担任と情報を共有する。	・本児の観察を意識し、気になる様子が見られたら、学級担任に報告する。
清掃	・本児の活動の仕方に応じて言葉かけをする（賞賛の言葉かけを意識する）。	・本児の活動の仕方に応じて言葉かけをする（賞賛の言葉かけを意識する）。 ・学級担任と情報を共有する。	・本児の活動の仕方に応じて言葉かけをする（賞賛の言葉かけを意識する）。 ・学級担任と情報を共有する。	・本児の活動の仕方に応じて言葉かけをする（賞賛の言葉かけを意識する）。 ・学級担任と情報を共有する。
下校時	・家庭に1日の様子を伝え、情報を共有する。			・本児に言葉かけをしたとき、気になる様子が見られたら教室まで同行する。

2 振り返り

- 「いつ」「だれが」「どのような」支援をするかについて共通理解を図ることができたので、指導や支援を意図的、計画的に行うことができました。
- みんなで役割を検討し、Eさんにどうかかわるかを自分の中で考えていく中で改めてEさんのよさが見えてきました。

研修シート(試案)

Ⅳ－１ 個別の指導計画の活用

- ◎ ねらい
個別の指導計画をもとに、支援の改善やその質の向上について考える。

１ 個別の指導計画に基づいた協議

【協議の観点の例】

- 評価

- 子どものよさのとらえ直し

- 活動や生活を行っていく上で困難なことの再確認

- 長期目標や短期目標の妥当性

- 指導や支援の内容、方法の改善・充実の具体策

２ 振り返り（協議を通して、改めて気付いたこと）

【事例10】研修シート試案の活用

個別の指導計画を見直すために

園内研修の取組（幼稚園）

～園内研修において、研修シート試案のⅣ—1「個別の指導計画の活用」の観点に沿って、個別の指導計画を見直しました。

◎ ねらい

研修シート試案の項目に沿って、個別の指導計画を見直し、指導や支援の質の向上を図る。

1 Fさんの個別の指導計画に基づく協議

○ 評価

- ・自分の所持品の後始末に取り組むが、絵カードや写真の名前を覚えたり、理解したりすることはまだできない。
- ・まだ単語ではあるが、自分の思いを相手に伝えようとする姿がみられる。

○ 子どものよさのとらえ直し

- ・具体的に指示したり、見通しを伝えたと理解できる。

○ 活動や生活を行っていく上で困難なことの再確認

- ・後始末の前に、排泄の仕方や手順を一部理解できていない。
- ・思いを伝える前に、園生活に必要な名前の中で、理解していない名前がある。

○ 短期目標の妥当性

- ・短期目標をもう少しハードルを下げて具体的で実現の可能性が高いものにすることが必要がある。

①「後始末ができる」

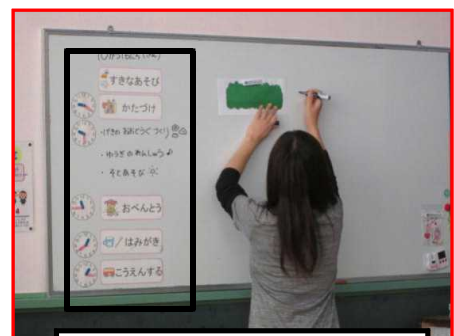
- 「排泄の仕方や手順を知る」
- 「ズボンとパンツを脱いで行う」

②「自分の思いを言葉で伝える」

- 「園生活に必要な名前を知る」

○ 指導や支援の内容、方法の改善・充実の具体策

- ・排泄時は教師も一緒についていき、根気よくかかわる。
- ・園生活に必要な言葉は絵カードで伝える。
- ・1日のスケジュールを掲示し、安心感をもたせる。



1日のスケジュールを時計の針とあわせて常時掲示しておく

2 振り返り

- 研修シート試案の観点に沿って考えることで、Fさんのよさをとらえ直し、短期目標をより具体的に設定するなど、個別の指導計画を見直すことができました。

研修シート(試案)

Ⅳ－２ 個別の教育支援計画の活用

◎ ねらい

個別の教育支援計画を活用した次の校種への引継ぎの仕方について考える。

１ 個別の教育支援計画を活用した次の校種へ引き継ぐ際のロールプレイ

(コーディネーター役２名、観察役に役割を分担して実施します)

※ 場面を設定してロールプレイを行ってください。

【場面設定の例】

- ・ 幼稚園のコーディネーターが、小学校のコーディネーターへ引き継ぐ場面

【引継ぎの観点の例】

- 本人の思いや願い
- できるようになってきたことやできそうなこと
- 保護者の願い
- これまで取り組んできた環境づくりや支援
- 特に留意すべき点

２ 振り返り (場面を演示して気付いたこと)

【事例11】研修シート試案の活用

個別の教育支援計画の活用を目指して

専門家チームの巡回相談の機会の取組(幼稚園)

～研修シート試案のⅣ―2「個別の教育支援計画の活用」を参考に、専門家チームの巡回相談の機会に、保護者と小学校に引き継ぐ内容を話し合いました。

◎ ねらい

研修シート試案の項目に沿って、個別の教育支援計画を活用した次の校種への引継ぎの内容について考え、効果的な支援や環境づくりを検討する。

1 話し合った引き継ぐ内容

○ 本人の思いや願い

- ・自分がどこで何をすればよいか先に教えてもらえると、自分から進んで行動できる。

○ できるようになってきたことやできそうなこと

- ・劇の練習では、台詞や振り付けなどを楽しみながら、間違えずに演じることができた。
- ・母親から、「妹のお風呂の入り方について、肩まで湯船につかる、30まで数えたら上がるということをよく見ていてほしい」と頼まれると、妹の面倒を見ながら一緒にお風呂に入ることができる。
- ・父親がくしゃみをする、「お父さんの身体が心配だ」などと優しい言葉をかけることがある。

○ 保護者の願い

- ・保護者は、事前に見通しをもたせることができれば、内容を理解して行動できることを小学校に引き継いでほしいと願っている。

○ これまで取り組んできた環境づくりや支援

- ・話しかけるときは、知っている言葉で具体的に話しかけるようにすること。
- ・新しいことを教えるときは、絵や図を用意し、分かるように予定を伝えるようにすること。
- ・「顔の表情の絵カード」を使用し、気持ちを表現しやすくしたり、ほめるときに大人の気持ちを伝えやすくしたりすること。

○ 特に留意すべき点

- ・「もう少し待って」などの抽象的な言葉や、「それでは、体育館に行きなさい。体育館に行ったら並びます。並んだら先生の話聞き、ステージにあがってお遊戯の練習をします。」などの長い説明は、十分に伝わらない。
そのため、「時計で〇まで」など具体的に指示したり、絵や図などを見せながら伝えるとよい。

2 振り返り

- 家庭での保護者の効果的な関わりを聞き取り、それを幼稚園での支援に生かすことを伝えることにより、保護者と幼稚園との共通理解が深まることが分かりました。
- 共通理解した内容を引継ぎに生かしたり、個別の教育支援計画作成の同意につなげたりすることができると実感しました。

研修シート（試案）

V－2 研修成果の検証

例【教職員へのアンケート項目の例】

※ 教職員に感想を聞く、アンケートをとる（項目は学校で設定）。○を付ける

	発達障がいのある子どもへの指導や支援について	十分理解している	少し理解している	あまり理解していない	全く理解していない
1	発達障がいの特性の理解				
2	実態把握、支援方法の検討				
3	個別の指導計画の作成				
4	個別の教育支援計画の作成				
5	発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくり				
	① 指導や支援				
	② 教師の言葉かけ				
	③ 障がいの理解				
6	発達障がいのある子どもへの配慮を含めた授業づくり				
7	校内（園内）の連携				
8	個別の指導計画の活用				
9	個別の教育支援計画の活用				

例【子どもへのアンケート項目の例】

※ 子どもに感想を聞く、アンケートをとる（項目等は学校で設定）。○を付ける

	学校生活で感じていることについて	そう思う	どちらかといえば そう思う	そう思わない
1	学級は、みんなで協力していると思う。			
2	先生は、あなたのよいところをみとめてくれていると思う。			
3	授業や先生の説明は、分かりやすいと思う			

【事例12】研修シート試案の活用

研修成果の検証(小学校)

1 教職員の意識の変化

① アンケート結果より

※26年度分は27年6月に、27年度分は27年12月に実施

		十分理解		少し理解		あまり理解ない		全く理解ない	
		26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度
1	発達障がいの特徴の理解	54%	79%	46%	21%	0%	0%	0%	0%
2	実態把握、支援方法の検討	54%	94%	46%	6%	0%	0%	0%	0%
3	個別の指導計画の作成	54%	93%	46%	7%	0%	0%	0%	0%
4	個別の教育支援計画の作成	54%	81%	38%	19%	8%	0%	0%	0%
5	学級づくり								
	① 指導や支援	54%	82%	46%	18%	0%	0%	0%	0%
	② 教師の言葉がけ	54%	100%	46%	0%	0%	0%	0%	0%
	③ 障がいの理解	62%	79%	38%	21%	0%	0%	0%	0%
6	授業づくり	54%	94%	46%	6%	0%	0%	0%	0%
7	校内（園内）の連携	54%	71%	46%	29%	0%	0%	0%	0%
8	個別の指導計画の活用	54%	62%	46%	38%	0%	0%	0%	0%
9	個別の教育支援計画の活用	54%	61%	46%	39%	0%	0%	0%	0%

② 教職員の主な声

- 「研修シート」等を活用したことにより、各学級における特別な教育的支援を必要とする児童について、共通した視点で全体交流を行い、情報を共有することができた。
- 「校内研修プログラム」を継続的に活用することで、普段から教師が「好意に満ちた言葉がけ」を意識できるようになった。
- 授業中に意図的に「静寂の時間」を設定したことにより、児童の集中力が高まった。
- ICT機器を活用した視覚的な支援を全校で取り組むことができた。

2 子どもの意識の変化

① 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査結果より（「当てはまる＋どちらかといえば当てはまる」に回答した割合）

自分にはよいところがある		国語の授業がよく分かる		算数の授業がよく分かる	
26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度
45.9%	81.7%	72.3%	83.6%	77.8%	83.7%

1 学校の活用事例

(2) 短い時間での活用

短い時間での活用事例は、

- ・ どんな場で
 - ・ どれくらいの時間で実施したか
- を表示しています。

短い時間での活用

【事例13】 職員朝会の5分間(小学校)

- ① 対象～全教職員
- ② 方法～「障がいの理解」のシートを配付し、校長が説明した。
- ③ 内容
 - 子どもたちや保護者に発達障がいなど、特別な教育的支援を必要とする
ことについて、理解を深めることは大切。
 - 「保護者に対する発達障がいなど特別な教育的支援についての説明例」
「子どもに対する発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例」
をもとに、子ども一人一人に応じた指導や支援を行っていくことは、一部
の子どもへの差別やえこひいきではないという理解を深めることは大切。

【事例14】 職員朝会の5分間(小学校)

- ① 対象～全教職員
- ② 方法～特別支援コーディネーターが全教職員に「教師の好意に満ちた言葉
がけ」を説明した。
- ③ 内容
 - 通常学級における発達障がいのある児童への教師の「好意に満ちた言葉
がけ」が、その児童だけでなく、周りの児童への心理的安心感を高める。
 - 職員全員が共通理解の下、「言葉がけ」を行うことで、より効果がある。
 - うまくできないことを叱責するのではなく、どうしたらうまくできるの
かを考えて声かけをすることが大切である。
 - 「好意に満ちた言葉がけ」で、なおかつ、具体的に短く、イメージしや
すい言葉や見通しをもたせた言い方が有効である。
 - 【言葉がけ】
 - 【好意に満ちた言葉がけ】
 - ・今は〇〇はできません！ ⇒ ・△△が終わったら、〇〇ができるよ。
 - ・早くしなさい！ ⇒ ・すばやくできたら、かっこいいね。
 - ・片付けなさい ⇒ ・まずは〇〇を。次は△△を（一つ一つ）

【事例15】 職員会議の校外研修報告の10分間(小学校)

- ① 対象～全教職員
- ② 方法～「特別支援教育充実セミナー」の参加した教員の報告
- ③ 内容
 - 「校内研修プログラム」についての説明。
 - ・学校の実態に応じて、内容を選択して取り組むことができること。
 - ・校内委員会や学年・ブロック単位で取り組むことができること。
 - 演習で取り組んだ「教師の好意に満ちた言葉がけ」を紹介。

短い時間での活用

【事例16】 学級経営交流会としての15分間(小学校)

- ① 対象～全教職員
- ② 方法～学級経営上の課題を出し合い、共通した課題について、「指導や支援」のシートをもとに取組を交流。
- ③ 内容
 - 低・中・高学年グループに分かれて学級経営上の課題を出し合う。
 - 共通した課題を取り上げ、現在行っている取組を記入する。
 - 取組を交流し、参考になる事項について記録する。
 - 今後1か月、継続して取り組みたい事項を決める。
 - 1か月後に、取組の様子を撮影した写真展を行い、成果を交流することとした。



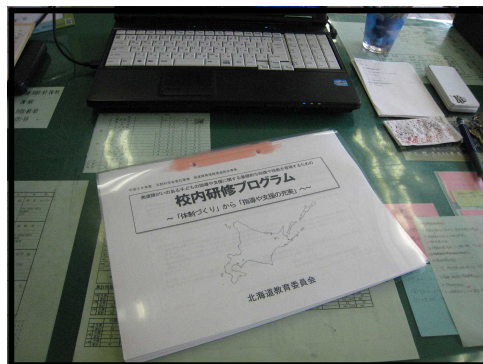
【事例17】 放課後の情報共有の15分間(中学校)

- ① 対象～全教職員
- ② 方法～授業で行っている配慮について交流。
(特別支援教育コーディネーターがあとで1枚に整理し、教職員全員に配布)
- ③ 内容
 - 授業のユニバーサルデザインとして取り組んでいることを出し合う。
(交流した主な取組)
 - ・ 授業の始めに、必ず、本時の目標又は目指すゴールを示している。
 - ・ 授業の始めは、だれもができる簡単な練習問題を実施している。
 - ・ ペアワークを複数回取り入れる。
 - ・ 指示を出したあと、必ず指示が分かったかどうかを確認している。
 - ・ 目で合図したり、サインでほめたりしている。
 - ・ 「説明は短く、視覚に訴えて」をモットーにしている。
 - ・ 「できない人を笑わない」を生徒と合い言葉にしている。

短い時間での活用

【事例18】 校内研修の15分間(中学校)

- ① 対象～全教職員
- ② 方法
 - 「校内研修プログラム」を増刷し、研修資料綴じ込み用クリアファイルを全教職員に配布し、保管や活用をしやすいとした。
- ③ 内容
 - 教頭が校内研修プログラムの概要を説明。
 - プログラムの中で、実践可能な部分から活用することを提案。
 - 特別に何かを行うという意識ではなく、当たり前のこととして、教室環境や言葉遣いに配慮することの大切さを全体で確認。



【事例19】 校内研修の30分間(高校)

- ① 対象
全教職員
- ② 方法
 - 生徒が抱えている困難性や対応について観点ごとに話し合い、一定の共通理解を図る。
- ③ 内容
 - 社会生活をした時の対人トラブルや課題が予想される生徒について
 - ・ 学校生活上の言動や様子
 - ・ 具体的な支援内容
 - ・ 支援の経過と今後の見通し
 - 学習の理解・習熟が十分でない生徒について
 - ・ 現状
 - ・ 具体的な支援内容
 - ・ 支援の経過と今後の見通し

【事例20】 パートナーティーチャー派遣事業の30分間(高校)

- ① 対象
担任、学年主任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭
- ② 方法
パートナー・ティーチャー派遣事業において、特別支援学校の教諭より指導助言を受けた。
- ③ 内容
 - 研修シート試案Ⅱー1「個別の指導計画の作成」を用いて、個別の指導計画の作成の指導を受けた。その後、担任、学年主任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭により、個別の事例について意見交換を行った。

1 学校の活用事例

(3) 年間を通した計画的な活用

年間を通した計画的な活用事例は、
見開き2ページで、
左側が「年間計画」、
右側が「その一部の研修」
となっています。

【事例21】年間を通した計画的な活用

すべての研修内容を取り扱った事例

※ 教職員の専門性の向上のため、すべての研修内容を取り扱った取組を計画しています。

	月日	校内研修等の内容	校内研修プログラムの研修シートの活用
①	4月 6日	○ 年間研修計画について	
②	5月 8日	○ ユニバーサルデザインの理論研修	■Ⅰ－１「発達障がいの特性の理解」
③	5月11日 5月15日 5月18日	○ 実態把握	■Ⅰ－２「実態把握と支援方法の検討」 ・実態を把握して共通理解を図る。
④	5月26日	○ 個別の指導計画の作成 ○ 園内の連携	■Ⅲ－３「園内の連携」 ・職員一人一人のかかわりを確認する。 ■Ⅱ－１「個別の指導計画の作成」
⑤	6月	○ 園内の視覚的な支援の見直し	
⑥	7月	○ 保育研究	■Ⅲ－２「保育の展開」
⑦	8月 3日	○ 個別の指導計画の活用	■Ⅳ－１「個別の指導計画の活用」 ・子どもの状況から、個別の指導計画を見直し、作成し直す。 ■Ⅱ－２「個別の教育支援計画の作成」
⑧	8月 5日	○ 学級づくり②教師の言葉がけ	■Ⅲ－１「学級づくり」教師の言葉がけ
⑨	9月30日 10月 6日	○ 保育研究 ○ 保育研究	■Ⅲ－２「保育の展開」
⑩	11月 12月	○ 学級づくり①指導や支援	■Ⅲ－１「学級づくり」指導や支援 ■Ⅲ－１「学級づくり」障がいの理解 ・指導や支援の在り方を考える。 ■Ⅴ－２「研修成果の検証」 ・教職員の意識
⑪	1月13日	○ 個別の指導計画の活用 ○ 園内の連携 ○ 小学校への引継ぎについて	■Ⅳ－１「個別の指導計画の活用」 ・子どもの状況から、個別の指導計画を見直す。 ■Ⅲ－３「園内の連携」 ・職員一人一人のかかわりを確認する。 ■Ⅳ－２「個別の教育支援計画の活用」 ・小学校への引継ぎ内容を検討する。
⑫	2月	○ 今年度のまとめ、次年度の方向性	

年間計画のうちの5月の取組

Ⅲ－３ 園内の連携（幼稚園）

園内研修の取組（幼稚園）

園内研修において、園内の連携、役割分担について考えました。

◎ ねらい

園全体で取り組む発達障がいのある子どもへの指導や支援の在り方を検討する。

1 A君への教職員一人一人のかかわり

	担 任	副担任	主 任	預かり担任	園 長	担任以外の先生
登 園 時	挨拶を交わしながら、身支度を集中して行えるよう支援する。	スケジュールを確認し、1日の見通しがもてるよう支援する。			保護者が安心して預けられるよう親子とコミュニケーションをとる。	
好きな遊びをする	遊んでいる様子を見守り、必要に応じて支援する。	遊びを見つけられるよう言葉かけをする。	必要に応じ、本児の活動を支援する。			遊びの中の約束を知らせ、友達と同じ場で遊べるようにする。
クラス保育 全体保育	全体への指導及び必要に応じて本児を支援する。	絵カードなどを利用して支援する。	クラスの活動からはずれた時は支援する。		個の活動を望む時は担任と連携をとり必要な支援をする。	他のクラスに入った時は戻れるよう支援する。
お 弁 当	様々な食べ物へ興味や関心を高められるように支援する。	弁当の片付けが自分で出来た時は認めてあげる。				
弁当後の好きな遊び・ 歯みがき	本児の様子を見守りながら、必要に応じて支援する。	食後は静かに遊べるよう言葉かけをする。		歯磨きを最後まで集中できるように支援する。		本児の様子を見守りながら、自分のクラスに帰るように促す。
預かり保育	午前の様子を預かり担任に引き継ぐ。		活動によっては必要に応じて本児の活動の支援にあたる。	友だちとのかかわりを見守る。		
降 園 時	保護者に本児の様子を伝え、園での姿を認めてもらえるようにする。			流れを一緒に確認し、必要に応じて手を貸していく。		



お楽しみ会での教職員の協力

2 振り返り

- 楽しいこと、発見したこと、できたことは、近くにいる教師が認めたり褒めたりしていこうとすることを確認できました。
- 本児への支援の方法を職員間で、共通理解することができました。

【事例22】年間を通した計画的な活用

「学級づくり」を中心とした事例

※ 学級づくりを中心に、校内研修プログラムの研修シートの活用を計画しています。

	月日	校内研修等の内容	校内研修プログラムの研修シートの活用
①	4月10日	○ 年間研修計画について	
②	5月11日	※ 学級経営交流会	■Ⅰ－１「発達障がいの特性の理解」 ・疑似体験を通して理解を深める
③	5月15日	○ 全体研修	■Ⅰ－２「実態把握と支援方法の検討」 ・実態把握の観点等の理解を深める
④	6月29日	○ 授業研究に向けての確認	
⑤	7月23日	○ 全体研修 ※特別支援学校教諭を講師とした説明や演習	■Ⅲ－１「学級づくり」教師の言葉がけ ■Ⅲ－１「学級づくり」障がいの理解 ■Ⅲ－１「学級づくり」指導や支援 ・各学級の取組を交流し、よい指導や支援を共有する
⑥	8月31日	○ 学習指導案検討 ○ 日常の授業実践交流	
⑦	9月18日	○ 校内授業研究１（授業参観と協議）	
10月23日～11月 2日 ～授業研究週間～			
⑧	10月26日	※ 学級経営交流会	■Ⅲ－１「学級づくり」指導や支援 ・各学級の取組を交流し、よい指導や支援を共有する
⑨	11月 2日	○ 授業研究週間の反省	
11月10日～11月30日 ～授業研究週間～			
⑩	11月25日	○ 校内授業研究２（授業参観と協議）	
⑪	11月30日	○ 授業研究週間の反省	
⑫	2月 8日	○ 今年度の反省と来年度の展望	■Ⅴ－２「研修成果の検証」 ・2月の時点での成果を検証する （教職員の意識、子どもの意識）

年間計画における7月の取組

Ⅲ－１ 学級づくり ① 指導や支援

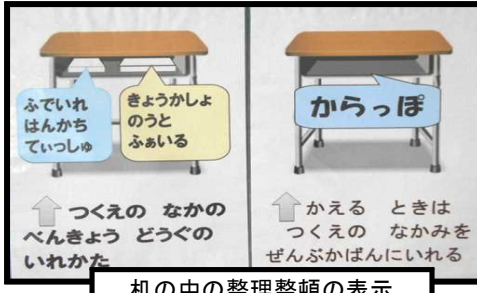
校内研修の取組(小学校)

～校内研修で、学級経営上の工夫について、教職員で交流しました。

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

1 取組の交流

項 目	項目ごとの学級づくりに関する取組交流
視覚的な支援 の取組	・教室に入る前に、教室の戸の表示を見て、自分から挨拶できるよう促している。 ・机の中の整理整頓ができるように教室内に机の図とその説明を表示している。 また、帰る時は「かえりはからっぽ」を合い言葉にしている。  教室の戸に挨拶の表示  机の中の整理整頓の表示
学級を温める 取組	・「みんなのたからばこ」と称してがんばったことや、やさしい行いがあった時に教師がシールを貼り、いっぱいになったら、お楽しみ会を行い、温かい学級づくりに取り組んでいる。 この取組には「勝ち負け」がなく、全員が学級に所属しているという意識をもつことができる。  みんなのたからばこ
静寂の時間の 位置付け	・休み時間中に興奮した子もクールダウンできるよう、授業の最初に教師が絵本を読み聞かせるようにしている。 ・授業中、いっさいしゃべらないで、一人で取り組む時間を必ず位置付けるようにしている。

2 振り返り

- どの学級でも、「視覚的な支援」「肯定的な言葉かけ」「静寂の時間の位置付け」に取り組むことにより、子どもたちが落ち着いて学習に取り組むようになりました。
また、教師同士が互いの取組を交流し、高め合うことにつながっていると思います。
- 今後も、子どもの変容を分析し、より効果的な取組を行ってまいります。

【事例23】年間を通した計画的な活用

「授業づくり」を中心とした事例

※ 授業づくりを中心に、校内研修プログラムの研修シートの活用を計画しています。

	月日	校内研修等の内容	校内研修プログラムの研修シートの活用
①	4月15日	○ 年間研修計画について	
②	5月20日	○ 発達障がいに関する研修	■Ⅰ－１「発達障がいの特性の理解」 ・疑似体験を通して理解を深める ■Ⅲ－２「授業づくり」 ・授業中の配慮について確認する
③	6月24日	○ 学習指導案検討 ○ 日常の授業実践交流	※実践ボックスの活用
④	7月 3日	○ 校内授業研究1（授業参観と協議） ※ 町内合同研修を兼ねる	■Ⅲ－２「授業づくり」 ・授業中の配慮について確認する
⑤	7月 8日	○ 1学期の反省	■Ⅴ－２「研修成果の検証」 ・7月の時点での成果を検証する （教職員の意識、子どもの意識）
⑥	8月26日	○ 学習指導案検討 ○ 日常の授業実践交流	※実践ボックスの活用
⑦	9月 2日	○ 校内授業研究2（授業参観と協議）	■Ⅲ－２「授業づくり」 ・授業中の配慮について確認する
⑧	10月 7日	○ 学習指導案検討 ○ 日常の授業実践交流	※実践ボックスの活用
⑨	11月11日	○ 学習指導案検討 ○ 日常の授業実践交流	
⑩	11月25日	○ 校内授業研究3（授業参観と協議）	■Ⅲ－２「授業づくり」 ・授業中の配慮について確認する
⑪	12月 2日	○ 発達障がいに関する研修	
⑫	1月27日	○ 今年度のまとめ	■Ⅴ－２「研修成果の検証」 ・1月の時点での成果を検証する （教職員の意識、子どもの意識） ・7月の結果と比べて検証する
⑬	2月24日	○ 次年度に向けて	

年間計画のうち、5月の取組

Ⅲ－２ 授業づくり

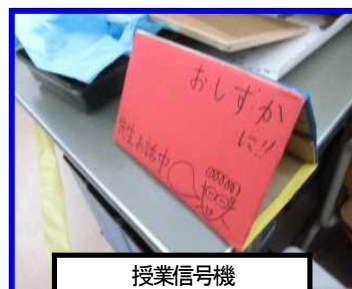
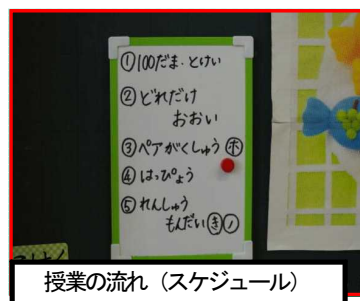
校内研修の取組(小学校)

～授業のユニバーサルデザインの工夫について、研修を深めました。

- ◎ ねらい
通常の学級における発達障がいのある子どもを含めたどの子にも通じる配慮について考え、授業づくりで心がけていくことを整理する。

1 授業中の配慮

過程	子どもの主な学習活動	どの子にも通じる教師の配慮の重点
導入	■何を、どのように学ぶかを見通す。	☐ 課題を視覚的に理解できるようにする。 ☐ 分かりやすい発問、指示に心がける。 ☐ 授業の流れを示し、見通しをもたせる。
展開	■主体的に学習する。	☐ 私語なしで、集中して学習する時間を位置付ける。 ☐ ペアやグループで取り組む場を設定する。 ☐ 授業のルールを視覚的な支援で徹底する。 ※例～「授業信号機」(写真右) 青→自由に発言できる。 黄→手を挙げて指名され発言する。 赤→先生が話している。発言できない。
終末	■学習を振り返り何を学んだのかを自覚する。	☐ 考え方や解き方を教師があらかじめ、カードや画用紙にまとめたものを掲示する。 (このカードや画用紙はその後も教室内に掲示しておき、分からない時に振り返るよう促す。) ☐ 本時の学習で分かったことを確認する。



2 振り返り

- 授業の流れを示すことで、子どもたちは安心して学習に取り組むことができるようになってきました。
 ○ 「授業信号機」など、視覚的な支援により、教師の指示や注意がなくても、支援が必要な子どもが落ち着きました。
 ※ 今後も工夫してうまくいった取組をメモして、職員室に設置した「実践BOX」(写真右)に入れて共有していくこととしています。
 「実践BOX」は定期的に関けて、先生方全員で話し合うこととしています。



2 地域での活用事例

地域での活用事例は、
どんな場で活用したかをタイトルに
しています。

【事例24】地域での活用

(1) 幼小中合同研修の事例

幼小中合同研修会の取組（域内の幼稚園、小学校、中学校）

～幼小中合同研修会において、保育を参観し、教師の配慮について話し合いました。

◎ねらい

発達障がいのある子どもへの配慮について考え、保育で心がけていくことを整理する。

1 保育中の配慮

時刻	幼児の活動	発達障がいのある子どもに対する配慮
8:50	○登園する ・道具の後片付けをする	■ 所持品の置き場所や始末の手順などを、写真や絵カード等を用意し、自分で確認できるようにする。 ■ 一日の生活のスケジュールを知らせる。
10:40	○自分から環境にかかわり遊ぶ ・好きな遊びを見付けて遊ぶ ・先生や友達と一緒に遊ぶ	□ 落ち着いて遊びに取り組めるように刺激の少ない場所を用意する。 ■ 遊び方やルールが分かるように、具体的な言葉や会話で伝える。 ■ 遊びに必要な遊具や用具の場所を写真や絵カードで分かりやすく表示する。
10:45	○片付けをする	□ スモールステップの取組を支援する。 ■ 全体への指示の前に、「時計の針が〇〇になったら片付けます」と個別に伝えておく。
11:20	○降園準備をする ○帰りの活動をする	□ 気持ちが高ぶっている時は、目と目を合わせ、落ち着かせて片付ける時を伝える。 ■ 必要に応じて、絵カードなどを使い集中できるようにする。 ■ 友達と一緒に静かに担任の話を聞けるように態度を認めながら励ます。

2 協議(幼稚園、小学校、中学校合同)

(小学校より)

遊びの中でも順番、約束、必要な道具、遊びの場の提示など、意欲を高める配慮が随所にあり、小学校の授業準備の参考になりました。

(中学校より)

ほめる、認める、できるようになるなど、自己肯定感を高める場面を教師がどれだけ意図的に設定することができるかが大切だと感じました。



合同研修の様子

3 振り返り(保育を公開した幼稚園)

- 1日を通して、どのような配慮が必要か明確になり、意識できるようになりました。
- その子によって必要な支援が違うので、教師間で共通理解することが大切だと思いました。
- 日々、実態も変わっていくので、支援の見直しを定期的に行う必要があると感じました。

【事例25】地域での活用

（２） 地域の幼稚園の合同研修の事例

町内の合同研修の取組（幼稚園）

～発達障がいについての特性の理解の演習を行い、発達障がいのある子どもの心理面や教師の指示の在り方で気付いたことについて、教職員で交流しました。

- ◎ ねらい
発達障がいのある子どもの学習の困難さを体験し、その心理や教師の指示を考える。

1 疑似体験（教師役と子ども役、観察者に役割を分担して実施）

演習1

■教師役（早口で矢継ぎ早に話しました。）

「明日はときわ公園に出かけます。」

「幼稚園には9:15に登園し、9:30に出発して、歩いて追分駅前に行き、9:40発の安平循環線バスに乗って公園に行きます。」

「バスには早来駅前まで乗り、バス停からタクシーでときわ公園まで行きます。」

「公園では、みんなでアスレチックで遊び、おやつを食べた後に、散歩をしてからお弁当を食べます。お弁当を食べる前にはきちんと手を洗ってください。あと、おしぼりも忘れないで持ってきてね。」

「お弁当を食べたら早来駅まで歩いて行きます。早来駅から13:28 発の安平循環線バスに乗って追分駅前まで行きます。追分駅前から歩いて幼稚園に帰ってきます。」

「14:00に帰ってきて、お迎えの時間は14:05になります。お父さんお母さんにきちんと伝えておいてください。いつもより20分お迎えの時間が早くなるから気を付けてね。」

「持ち物は弁当と水筒、ハンカチとちり紙、ゴミ袋です。」

（子ども役に冷たく質問しました。）

- ・どこに行きますか。
- ・公園では、何をしてからお弁当を食べますか。
- ・お迎えの時間は何時ですか。
- ・持ち物は何でしたか。

【教師役の厳しい言葉がけ】

- どうして覚えていないの！
- さっき言いました。だめですね。
- きちんと聞きなさい！

2 振り返り

- 質問に答えられないと追い詰められる感じがして、とても苦しいと思いました。
- 指示した後に理解したことを確認してから、次の指示をしようと思いました。
- 早口で長い説明を聞くと、話の内容が頭に入らなくなり、途中から不安が強くなり、子どもの気持ちが分かりました。
- 地域の幼稚園で合同で研修することで、今後も互いに高め合えると思いました。

【事例26】地域での活用

（３）市の特別支援連携協議会の事例

市の特別支援連携協議会の取組（域内の小学校、中学校）

～市の特別支援連携協議会において、教育局ＳＶを講師に、校内研修プログラムの説明や演習等の研修を行った成果を生かし、各学校で実践した内容を交流しました。

◎ ねらい

「校内研修プログラム」を活用し、発達障がいのある子どもへの配慮について考え、各学校間の取組を交流する。

6月 市特別支援連携協議会研修会

- 市内各学校の特別支援教育コーディネーターが集まり、教育局ＳＶを講師に、「校内研修プログラム」の活用の方法や内容についての説明を聞き、「教師の言葉がけ」の演習を行った。



9月 市内の各学校の合同研修会

- 市内の各学校の教頭又は特別支援教育コーディネーターが集まり、取組を交流しました。
 - A小学校～「教師の言葉がけ」の演習を行いました。
 - B小学校～「視覚的な支援」や「個別の指導計画作成」の研修を行っています。
 - C小学校～「実態把握と支援方法の検討」、「教師の言葉がけ」の演習が効果的でした。
 - D小学校～「教師の言葉がけ」と「視覚的な支援」の研修を行いました。
 - E中学校～「実態把握と支援方法の検討」のシートを活用し、個別の支援を検討しています。
 - F中学校～「教師の言葉がけ」や「授業づくり」について校内研修で共通理解を図りました。
 - G中学校～「実態把握と支援方法の検討」のシートを活用し、個別の支援を検討しています。

■ 講師の助言

発達障がいのある子ども、また、その傾向がみられる子どもは、障がいがあるのか、環境の問題なのかが、見えにくいです。したがって、どの子どもにも通じる「刺激を減らす」「分かりやすい指示」等、最大公約数的な取組が大切と感じています。

また、発達障がいのある子どもは、二次的な障がいとして非行や不登校に陥ってしまうこともあります。こうしたことを考えますと、これからの先生方は、生徒指導や教科指導はもとより、特別支援教育の研修が大切と思っています。

特に、北海道は広域性が強いです。

1校1校がとても離れています。だからこそ、校内研修や校内での共有が重要です。北海道教育委員会が作成した校内研修プログラムを活用する意義はそこにあります。



市内各学校の合同研修の様子

振り返り

- 校内研修プログラムの「教師の言葉がけ」の演習を継続的に行い、教師が発する言葉の質を磨いていきたいと思いました。
- 他の学校の取組を聞いて参考になったことを自校でも取り組みたいです。

【事例27】地域での活用

（４）市のコーディネーター研修の事例

市の特別支援教育コーディネーター研の取組

～市内各学校の特別支援教育コーディネーターが集まり、教育局ＳＶを講師に、校内研修プログラムをもとに、「発達障がいの特性の理解」「教師の好意に満ちた言葉がけ」の説明や演習を行い、通常の学級の授業の配慮について交流しました。

◎ ねらい

「発達障がいの特性の理解」や「教師の言葉がけ」「支援を必要とする子どもへの配慮」について研修を深め、自校に戻って、校内研修プログラムの活用をより一層推進する。

１ 発達障がいの特性の理解の演習(略)

２ 教師の言葉がけの演習(略)

３ 通常の学級における特別な教育的支援が必要な子どもへの授業の配慮の交流

項目	具体的な内容の例	交流した各学校の主な取組
授業の構想	□ 「興味を引き付ける課題提示」、「課題とまとめの連動」を意識し、授業を組み立てている。	・ 課題提示は、大型テレビやタブレット端末等、ＩＣＴを活用しています。
分かりやすい発問や指示	□ 短い発問や指示に心がけている。 □ ゆっくり伝えている。 □ 終わりを伝えている（「３回します」「５分です」など）。	・ 子どもの注意を自分に向けさせてから話すようにしています。 ・ 時間の区切りを意識します。 ・ 時間をタイマーで示しています。
視覚的な支援 メリハリ	□ 大事なことは、やって見せる、または写真等で示している。 □ 授業のスケジュールを提示している。 □ 板書で、色チョークを使ったり線で囲んだりしている。 □ 今、何をする時間かを明確にしている。（「今は聞く時間」「今は書く時間」など）	・ １日や１時間の流れを必ず掲示しています。 ・ 「課題」と「まとめ」は、四角で囲んで板書する取組を全教科で行っています。 ・ 話を聞く時は手を止めて、顔を上げて聞くように指導しています。
静寂の時間の投入	□ 非言語やサインで認める、指示するよう心がけている。 □ 話をしないで一人で取り組む時間を設定している。	・ どうしても困った時は、「まねき猫カード」を机の上に出すように伝えており、カードを出した子には、小さな声で静かに対応しています。
学習が遅れないような配慮	□ 既習事項を確認する場面を設定している。 □ できるだけスモールステップにし、取り組めたことを評価している。	・ 分からない子どもがいた場合、既習事項に立ち返って指導するよう心がけています。

４ 振り返り

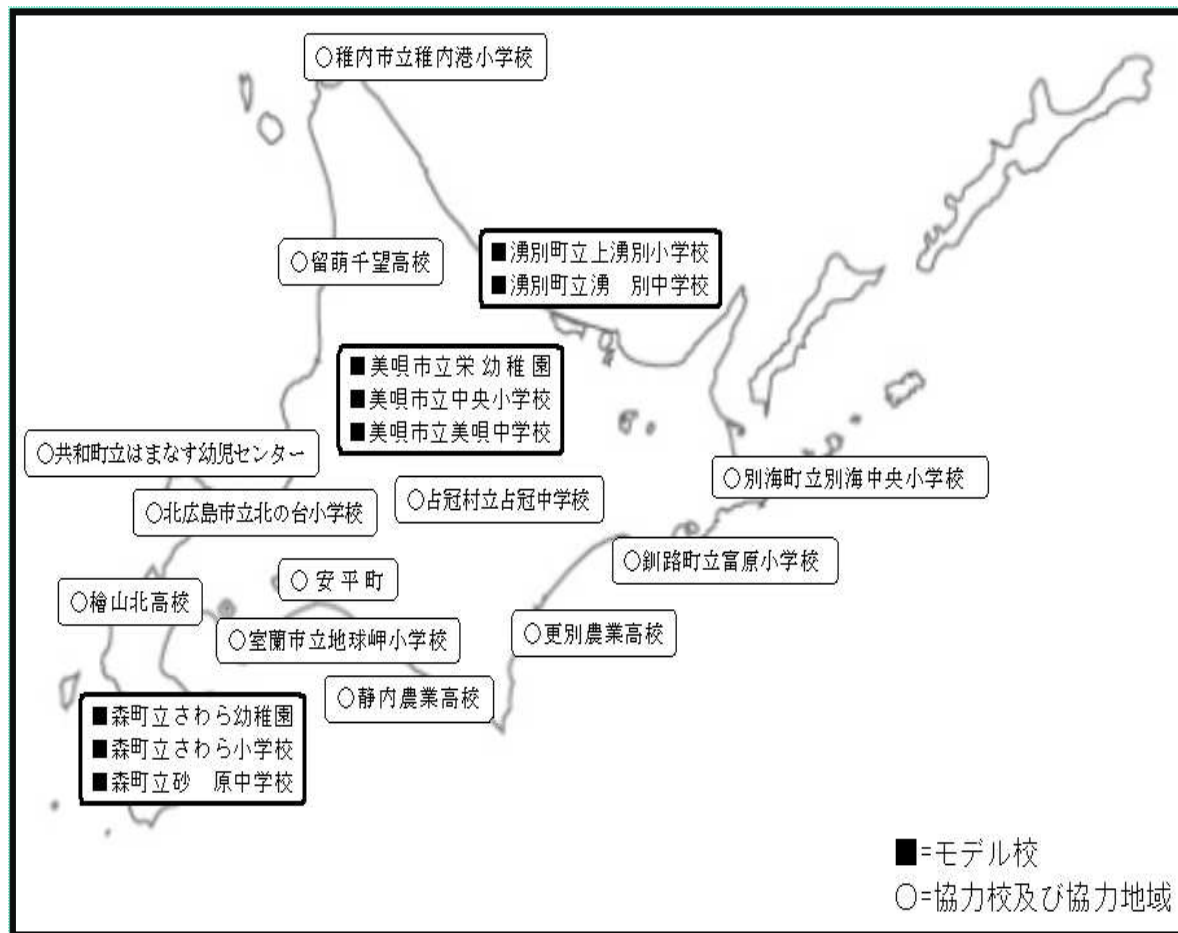
- 「特別支援教育は、特別支援学級の教師が行うもの」という概念を変えるため、校内研修の必要性を強く感じました。
- 特別支援教育の視点を生かした授業づくりが、子どもの学力の底上げにつながると感じました。
- 「視覚的な支援」「具体的な指示」「肯定的な言葉がけ」を大切にしていきたいと思いました。
- 交流した取組を職員室に掲示したいです。
- 小学校の授業の組み立てやアイデアは魅力的。このような定期的な交流が必要と感じました。

コーディネーター研修の様子



校内研修プログラム活用事例の提供の地域・学校

1 平成27年度発達障がい支援モデル事業におけるモデル校及び協力校



2 その他の地域・学校

- 根室市、美唄市
- 千歳市立末広小学校、伊達市立伊達小学校、伊達市立長和小学校
白老町立緑丘小学校、鶴川町立鶴川中央小学校、網走市立南小学校
- 室蘭市立翔陽中学校、湧別町立湖陵中学校
- 北海道追分高等学校、北海道白老東高等学校、北海道根室西高等学校

3 モデル校への支援校

- 北海道紋別養護学校ひまわり学園分校
- 北海道美唄養護学校
- 北海道函館豊学校

本事例集の作成にかかわり、「発達障がい支援モデル事業」のモデル校や協力地域、協力校やその他の学校からたくさんの校内研修プログラムの活用事例を提供していただきました。

事例提供の御協力に、心より感謝申し上げます。

提供いただいた事例の中から、その一部を御紹介させていただきましたが、紙面の関係上、掲載できなかった事例も、どれも素晴らしい取組であったことを申し添えます。

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課（問合せ先 電話011-204-5774）